

## 三島小PTAが防犯劇を上演

三島小学校PTA（岸泰信会長）が2月5日、同校の“ふれあい学習発表会”で、不審者への対応策や地域での取り組みの重要性を呼び掛ける寸劇を上演。児童と三島幼稚園児、保護者ら計約300人が観賞しました。

三島小学校校区では、昨年7月から住民が車で巡回したり、子どもの登下校を見守ったりする「スクールあい」運動を展開するなど、学校と保護者、地域が連携して防犯への取り組みを強めています。

「あってよかったで…show」と題した寸劇は、「スクールあい」「SOSの家」「地域コミュニティ」の3話で構成され、不審者に声を掛けられた時の子どもたちの対応や、地域の協力者が不審者を追い払う様子などを会員約20人が熱演しました。岸会長（庄舞）は「防犯に対する住民意識の高揚と、地域間のつながりをより強めたいとの思いから寸劇を考えた。今後も不審者が近寄り難い地域になるよう活動を広げたい」と話しています。



▲防犯劇を演じる三島小PTAの会員ら

## 児童と一緒に下校“見回りパトロール”を実施



▲児童の安全確保を目的に実施された“見回りパトロール”

通学途中の児童の安全確保を目的に、脇町の「拝東安心・安全パトロール」（住友易雄代表）が2月6日、江原南小学校、美馬警察署との連携で“見守りパトロール”を実施しました。

同校の下校時間に集まった住友代表ら5人は2班に分かれ、校門から北と南への通学路約2kmを児童と一緒に歩きました。危険箇所となる人気の少ない通りや、民家から離れた場所を確認したほか、不審者からの誘いには十分注意するよう児童に呼び掛けました。

「拝東安心・安全パトロール」は、今後も毎月1、2回の巡回を実施し、これに基づいた「通学路における危険箇所マップ」を作成する予定です。

## 脇町拝東地区が「地域安心・安全ステーション」に選定

拝東地区は、旧脇町の平成14年に自主防災組織（新居和男代表、313世帯で構成）を立ち上げ、地元の公会堂を活動拠点に消防、警察などと連携を図り、防災・防犯活動に積極的に取り組んできました。平成17年6月には消防庁から「地域安心・安全ステーションモデル地区」（県内で3地区）に選定され、現在は組織内を「自主防災会」「ふれあい・いきいきサロン」「安心・安全パトロール」「小地域ネットワーク連絡会」の4組織に編成、各種活動を続けています。

これを受け、市は拝東地区を防災・防犯活動の先進地として位置づけ、(財)自治総合センターの宝くじ受託事業収益金を財源とする「平成17年度コミュニティ助成事業」（地域安心・安全ステーション対象分）により、発電機やヘルメットなど防災資機材の整備を図りました。



▲コミュニティ助成事業で購入した防災資機材